



全日病 S-QUE 看護師特定行為研修

医療安全学／特定行為実践

共通科目



2.②チーム医療の事例検討

チームとしての最大を発揮する 演習

昭和大学 医学部 救急医学講座

山下 智幸 氏

チーム医療の事例検討 ～チームとしての最大を発揮する～

昭和大学 医学部 救急医学講座
山下 智幸

目標

有機的なチーム医療を実践するために、
問題解決するための考え方を身に付ける

- ・チーム医療を実践するときに発生する
典型例を列举できる

1. 高度急性期、急性期、回復期
2. 慢性期、介護施設
3. 在宅

高度急性期、急性期

75歳 女性 かかりつけはなく、家族と同居している。
自宅で腹痛があり、経過を見ていたが軽快しなかった。
胆汁様の嘔吐も認めるようになり、救急受診した。
来院時 JCS 30, RR 24/分, SpO₂ 91% 大気
PR 130/分, BP 80/50mmHg, 瞳孔3/3mm
BT 37.8℃

- 患者の病態は？
- 患者の疾患は？
- 治療は？

高度急性期、急性期

75歳 女性 かかりつけはなく、家族と同居している。
自宅で腹痛があり、経過を見ていたが軽快しなかった。
胆汁様の嘔吐も認めるようになり、救急受診した。
来院時 JCS 30, RR 24/分, SpO₂ 91% 大気
PR 130/分, BP 80/50mmHg, 瞳孔3/3mm
BT 37.8℃

- 新たに併発するかもしれない問題点（疾患）は？
- 治療に際し、行う可能性のある特定行為は？

高度急性期、急性期

75歳 女性 かかりつけはなく、家族と同居している。
自宅で腹痛があり、経過を見ていたが軽快しなかった。
胆汁様の嘔吐も認めるようになり、救急受診した。
来院時 JCS 30, RR 24/分, SpO₂ 91% 大気
PR 130/分, BP 80/50mmHg, 瞳孔3/3mm
BT 37.8℃

- 院内のどのようなチームと連携する可能性があるか？
- 相談する可能性のある医療従事者は？

高度急性期、急性期

75歳 女性 かかりつけはなく、家族と同居している。
自宅で腹痛があり、経過を見ていたが軽快しなかった。
胆汁様の嘔吐も認めるようになり、救急受診した。
来院時 JCS 30, RR 24/分, SpO₂ 91% 大気
PR 130/分, BP 80/50mmHg, 瞳孔3/3mm
BT 37.8℃

- 退院に向けて、必要なことは？

回復期

75歳 女性

疾患は治癒したが、廃用症候群となった。

自宅に帰る前に、リハビリテーション目的に転院した。

■ リハビリ中に退院に向けて、必要なことは？

どんなケースでも…

■ 特定行為研修を修了した看護師が
常に意識すべきことは？